

追悼文

佐地勉先生への追悼の言葉

本年 5 月 22 日に東邦大学名誉教授，日本小児循環器学会監事の佐地勉先生がご逝去されました。

診断からわずか 2 か月での急逝であり，会員の皆様の驚き，お嘆きは如何ばかりかと拝察申し上げます。

佐地勉先生は日本小児循環器学会の理事，学術委員長，総務委員長などを歴任され，現役の監事のお亡くなりになりました。日本小児循環器学会の最近の隆盛は一重に佐地先生のご尽力によるものであると申しまして決して過言ではないと思います。先生のご功績に対しまして第 53 回日本小児循環器学会学術集会総会におきまして特別功労賞が贈呈されました。Shy な先生でしたので顔には出されないかもしれませんが，内心お喜びのことと存じます。

去る，7 月 23 日に東邦大学小児科学教室主催の「佐地勉先生を送る会」が開催され，約 800 人の参列者で会場は埋めつくされました。日本小児循環器学会からも多くの方々の参列があり，皆様，生前に賜りましたご厚誼に対しまして感謝の意を表されていらっしゃるのではないかと推察申し上げます。送る会におきまして弔辞を奉読させていただきました。拙き弔辞ではございますがこれをもちまして佐地勉先生への追悼の言葉とさせていただきます。

合 掌



St. Andrews Golf Links にて 2015.9.3

弔 辞

涙，滂沱のごとく流れ，止むことを知らず，お別れの言葉を述べようにも，空虚感に苛まれた心，如何ともしがたく，諸行無常の理をひしひしと感ずるのみであります。

長きに亘り，友の端にお加え頂き，尊崇の念をもって交誼を結ばせて頂いて参りました。

昨今の学術の世界，取り分け自然科学の分野における風潮として，業績を上げることのみを最終目的としての業績づくりがあるように思えます。その風潮は捏造・改ざん・盗用を生み，学問の世界を地に貶めるような一大スキャンダルが起りましたことも記憶に新しい所であります。最近の世界的規模のデータでは撤回された論文数の worst10 に日本人科学者が 2 人も名を連ねているとの報告があります。佐地先生はそのような風潮を良しとせず，本来学問の本質は別のところにあり，それは真実 Veritas を求めることであり，そのためには Scientific integrity の確立がもっとも重要であると常々考えていらっしやいました。Veritas の追及こそが学問の神髄であり，業績はその結果としてついてくるものであって，求めるものでない。医学の世界においても全く同様に，研究や診療を通

して医学・医療の Veritas に迫らなければならないとよく話しておられました。

佐地先生は小児科学に限らず医学全般にわたり、また日本ばかりでなく世界を field として医学・医療の Veritas を追い求め東奔西走しておられました。時に、数日間で世界を一周するなどの過激な旅もあり、こういった過酷な行脚がこの度の病の一因となったことは否めません。

昨年3月末日をもって大学を退官なさった後、やり残した仕事があるからと言われ、東邦大学医学部心血管病研究先端統合講座を開設され、主に、「肺動脈高血圧症」、「小児期血管炎症候群」、「小児期心筋炎」、「小児臨床薬理」の4つを主題とした研究に精力的に打ち込んでいらっしゃいました。

逝去される数週間前に頂戴したメールに「何としても奇跡が起こることを信じたい」との心の内を吐露された一文がありました。病魔と闘い、恐らく不安に苛まれ、多くの葛藤と戦っていらっしゃったその中であっても1年間に亘る先端統合講座の学術的証を残したいとされ、短期間の間に「平成28年度活動報告書」を上梓されました。どの様な過酷な状況に置かれても冷徹な意識を持った科学者佐地勉でなければなしえない、まさに Scientific integrity のなせる業と深く深く心に刻んでおります。

佐地先生が斯界に残された、学問への取り組む姿勢は、赫々として永遠に輝き、後進の道を照らし続けることでありましょう。

平成29年8月2日
すばるこどもクリニック
小川俊一